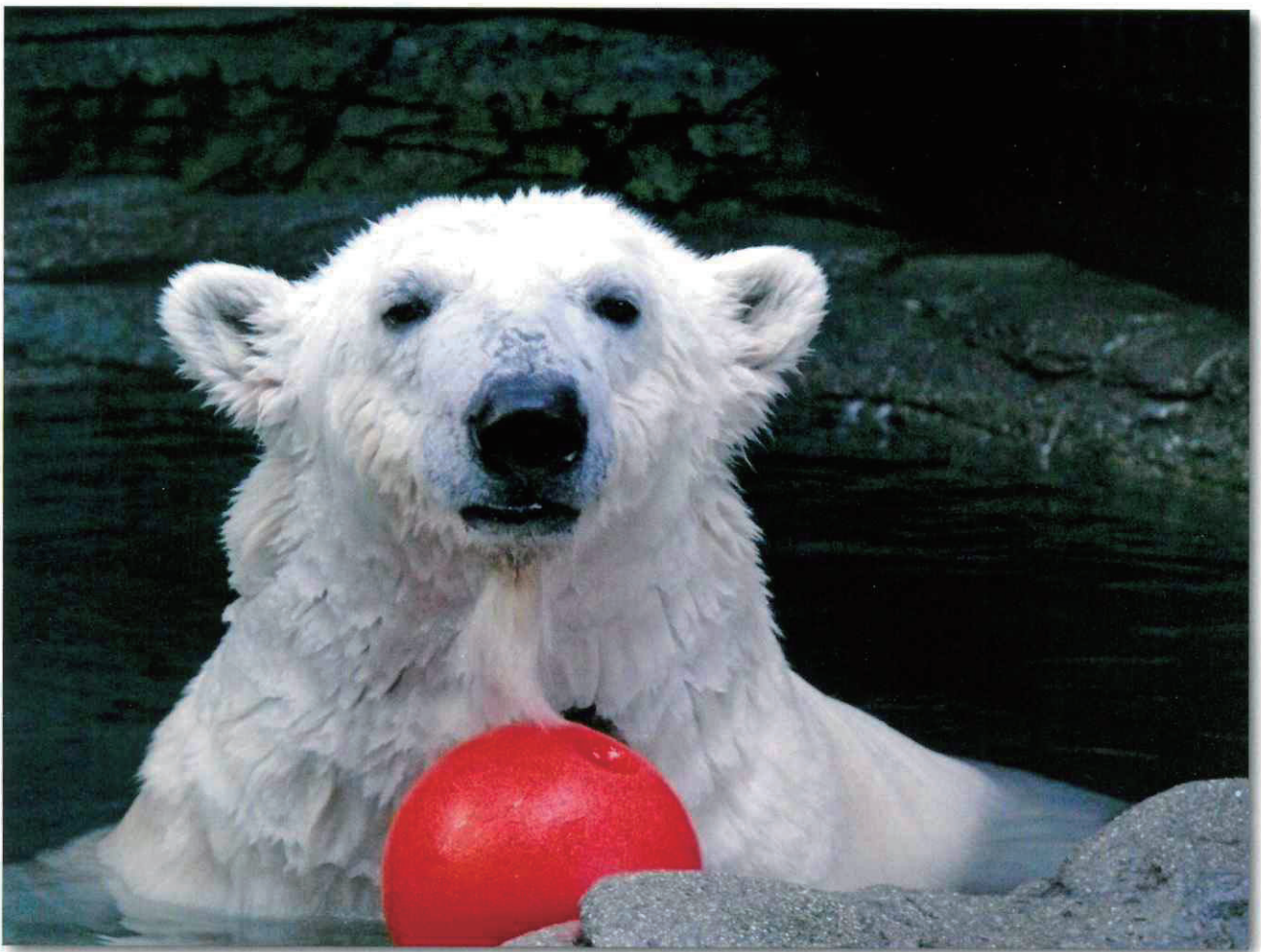




松協だより

第73号



夜風



リュウズ(同)

大野直史

四人の子どもたちが成長し、法律上、軽自動車に乗ることができなくなったことから始まったトゥクトゥクの購入。

子どもたち全員が乗車できる自動車を探すため、自動車の販売店を訪れたが、結局その時は購入に至らなかった。その後、どの自動車を購入しようかと考えていたところ、東南アジアのトゥクトゥク内で味わった夜風の心地良さが頭をよぎった。ぬるい風と涼しい風



が渦巻き、たまに屋台の甘辛い匂いが混ざる窓のない不思議な乗り物。そのうえ、体感速度がとても速く、メリーゴーランドのように様々な色の照明があり、独特の音楽も流れ、気持ちが一気に昂ったことを覚えている。

いずれ子どもたちは独立し、一緒に過ごす時間が減っていく。それならば、貴重な休日はこの面白い乗り物でさらに楽しく過ごしていこうと思いはじめた。そして、気が付くとインターネットで購入方法を検索している自分がいた。すると、他県で販売していることが分かり購入した。それまでに何度も警察署などに行き、この乗り物が公道を走行していいかどうか確認することをはじめ、様々な規則を調べた。特に、警察署に何度も行くものだから覚えられ、トゥクトゥクの社長と呼ばれることもあった。

そして、同時に日本国内でこの乗り物を使い事業ができないかどうかも研究した。まず、貸出を考えたが、事故への懸念により中断した。また、タクシーや観光なども考えたが、三輪の乗り物については対価でお金を得ることが禁止されているので採用しなかった。最終的には、車体と自社HPに広告を掲載し、顧客の希望に応じて物件を案内することに決めた。

一方、海外では主に東南アジアや中東などで三輪タクシーとして普及している。可愛い見た目が旅行者にも大人気なうえ、小回りが

利き、小道、渋滞も通り抜けることができる。また、乗客以外に食品や雑貨なども運ぶので、物流としての役割を果たす、実に働き者といえる乗り物だ。特に有名なのは、街の風物詩になっているタイ王国のトゥクトゥク。「トゥクトゥク」と音を立てて走ることが、名称の由来といわれている。そして、このトゥクトゥクの前身が、日本の高度経済成長期を支え、爆発的ヒットを飛ばしたダイハツの三輪自動車（オート三輪）「ミゼット」である。

今回、あの夜風に誘われたおかげで、たくさんの思い出をつくることができた。特に、子どもたちと飼っている犬を乗せて行ったドッグランや遊泳場で濡れた水着のまま乗り帰宅した日が懐かしい。また、日頃は単独でも駐車する度に知らない方から頻繁に声をかけていたので、普段出会わない方と話す機会が増えた。そして、トゥクトゥクの仕組み、広告掲載店の紹介及び不動産の相談などの話題で盛り上がった。中には北海道からの観光客もおり、御土産までいただいた。このほか、物件案内については、検討者の多くがトゥクトゥクの乗車を希望される。初対面の方も最初から笑顔なので、楽しい物件探しが展開できて良かった。

旅にはいつも学びがあり、人生に彩りを与えてくれる力がある。今の自分は四十五歳。残された時間は限られている。



広告事業（トゥクトゥク）



- 弊社が購入したトゥクトゥク
- 最大乗員数は七名（運転席一名・客席六名）
- 側車付二輪自動車（側車付オートバイ）
- タイ王国から他県の業者を通じて輸入
- ダイハツ製のエンジンとブレーキ
- 排気量六六〇cc（軽四輪に相当）
- 普通自動車免許で運転可能